

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	5	課題区分	C	令和7年(2025年)3月30日
横断的な課題	高速交通網開通の効果を地域づくりに最大限に活かす基盤整備					南信州地域振興局
地域重点政策	高速交通網開通の効果を最大限に活かす基盤整備					
実施機関	南信州地域振興局			担当課	所属	
事業名	三遠南信地域マラソン大会スタンプラリー事業			電話	8-237-2285	
				E-mail	<a href="mailto:minamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp">minamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp</a>	
事業の概要	目的 (目指す姿)	三遠南信自動車道の全線開通を見据え、長野、愛知、静岡の県境を越えた交流事業を実施することで、つながり人口の一層の拡大を図る。				
	現状と課題	三遠南信自動車道の全線開通を見据え、長野県・愛知県・静岡県からなる三遠南信地域の発展に向けたつながり人口の拡大が課題となっている。 このため、各地域で開催されるマラソン大会を活用したスタンプラリー事業を実施し、地域内周遊・交流を促進する。 なお、令和元年度、令和4～6年度に同事業を実施(令和2～3年度は、新型コロナウイルス感染拡大による中止)しており、令和6年度に応募者数197名と増加してはいるものの、地域の認知度はまだ低水準と思われる。令和6年度事業の様子から、本事業参加者のうち、長野県の大会に参加された方が少なく、長野県の来訪につながっていないことが考えられる。				
内容 (変更後の内容)	内容	○参加者は、対象マラソン大会会場等でスタンプ台紙にスタンプを1個押印し、合計3個以上集めて専用はがきにて応募する。応募者の中から、抽選により各地域の特産品を賞品として授与することで、スタンプラリーへの参加を促し、つながり人口を増やす。(参加ランナーに限らず、応援者、大会スタッフなど誰でも参加可能) ○本事業を幅広くPRするため、チラシ・ポスター・のぼり旗を作成し各市町村や観光施設、体育施設等に掲示する。 ○今年度及び次年度大会における本事業への参加者増に向け、マラソン大会会場にブースを設けて、本事業の周知を行う。 令和7年度においても、管内の対象マラソン大会にブースを設け、事業PRを行う。 参考:令和6年度対象マラソン大会数 18大会 うち南信州管内 3大会(飯田市、売木村、天龍村) ○本事業は、令和7年度で5回目の開催となり、事業の応募者も年々増加し認知度も少しずつ上がってきているが、本事業の伸びしろはまだあると感じる。 ○三県合同の特別賞を新たに追加し、参加者意欲向上を図る。 ○愛知県・静岡県の対象大会に赴き、長野県の大会周知や観光PR等を行い、長野県の来訪につなげる。 ○マラソンに関心のある人へ大会を周知するため、RUNNET会員へダイレクトメールを配信し、広く参加者増を呼びかける。 ○10月29～30日に静岡県において、愛知・静岡・長野の三県担当者が集まり、マラソン大会スタンプラリーの今後の展開や施策について意見交換を行う。				
	事業期間	令和7年7月 ～ 令和8年3月				
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画額	備考		
	マラソンスタンプラリー事業	運営委託費 旅費	337,408	委託料総計974,724円を3県で負担。 10月29-30日意見交換会旅費		
	大会周知PR活動等	物品送付等通信運搬費 燃料代	9,912	郵送料5,490 燃料代4,422		
	合計		347,320			
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況	
	応募者数(人)(令和6年度:197人)		250人	196人	未達成	
	特別賞要件該当者(各3県でスタンプ1つ以上、合計スタンプ4つ以上)(人)(令和6年度:19人)		30人	22人		
事業実績・成果	令和7年度の応募者数は196人(前年比-1人)、うち応募要件を満たした者は172人(前年比+1人)と、全体として大きな増減はなかった。また、当県からの応募者数は5人(前年比-3人)と減少した。これは、県内の対象大会の一つである「風越山トレイルマラソン大会」が中止となったことの影響が大きいと考えられる。 一方で、三県共通の「特別賞」要件該当者は22人(前年比+3人)と微増し、広域的な参加意欲の高まりが一定程度認められた。また、愛知県で開催された「うろぎトライアルRUN」でのPRでは、「昨年にも応募し、賞品が当たった」、「マラソンには参加しないが、スタンプ押印のために愛知から道の駅に立ち寄って帰る」等の声が寄せられ、事業の認知度向上および交流人口の拡大に一定の効果が確認できた。 RUNNET会員へのダイレクトメール送付については、目立った応募増加にはつながらず、情報発信方法に改善の余地があることも明らかとなった。					
今後の方向性	令和8年度は、これまでの事業内容を基本的に維持しつつ、SNSを活用した広報に力を入れ、マラソン参加者に限らない新たな層にもスタンプラリーの魅力が伝わるよう周知を強化する。また、本事業の認知度をさらに高めるため、情報発信の質と効率性を向上させることを目指すとともに、長野県の対象大会を1大会増やし、県内での参加機会を広げていく。 令和9年度以降は、マラソン大会に加えて道の駅や温泉施設なども対象とする方向で事業の拡充を検討し、より幅広い層の周遊促進と地域への誘客につなげるとともに、三県間での連携を継続して深化させ、交流人口・つながり人口を継続的に拡大できる仕組みづくりを進めていく。					